

# 例会佳句

謹賀新年——陰暦では立春が一年の始まりの基準とされ、立春に一番近い新月の日を元日としていたので新年は春であった。陽暦では一月は冬のさなかだが、また当時の習慣が残っていて初春（新春）を新年とする考え方が続いている。

正月三日は元日から三日間をいう。屠蘇を飲み、雑煮を食べ、年賀を交換し、最も正月らしい時である。松の内は七日目までで、門松を立てて置き正月気分のある期間。松七日といひ、この日に松送り（松納め）をし門松を焼いたり処分するが、地方によって日にちが違つところがある。

七日目は七日正月といひ、七草粥を祝つ。この粥を食べると一年病気をしなひと言われているが、正月に餅などを食べ過ぎたお腹を休める意味もあるよつた。

鏡開きは正月に歳神に供えた鏡餅を割つて食べる。日にちは地域によつて違つが、十一日が多い。武家では甲冑に供えた鏡餅を食べ、祝ひ、女子は鏡台に供えた鏡餅を食べ、祝つた。鏡開きは刃物で切ることを忌み、手か槌で割り、開くとこつ。

(四季の会 世話人)  
「シシツク」の俳句は會員互選の上位句

利酒も旅のひとつま秋うらら  
大山の神の宿りて稲穂垂る  
梨を剥く遺影の視線感じつつ

神奈川 中本 萬里

秩父路の兜太の里や蕎麦の花  
逆上がりやつとできたよ秋麗  
真つ白な梨をフォークに刺しにけり

東京 坂本 州賢

炎昼の麒麟の首のやり場かな  
晩年のひと日大切秋麗  
黒りボン掛かる写真へ梨を剥く

大阪 加藤 あや

短命を一途に鳴きて秋の蝉  
秋麗湖面に写る逆さ富士  
川風を浴衣にうけて外湯かな

兵庫 高森 功一

秋麗棟上げ式の木の香り  
登呂の郷浪漫にはしゃぐ夏休み  
大病も治ると友の秋近し

東京 北詰 南風

せりせりと母へ梨剥く誕生日  
秋うらら柾目の枡に吟醸酒  
啄木の駅に降り立ち虫の声

宮城 鈴木 わかば

梨三つ孫の手摘みの宅急便  
ひとりでに生えたかぼちゃを味噌汁に  
植え替えし花伸びやかに秋麗

東京 坂本 秀浩

釣草を両手でつかみ秋暑し  
くまもんは一番人気秋うらら  
台風の近づくさなか通院す

千葉 加藤 浩雲

秋刀魚焼く煙の先に猫二匹  
秋麗車椅子押す九段坂  
梨たわわ風に吹かれて一つ落つ

東京 中西 麦人

名に釣られついで手を伸ばすだぢや豆  
秋うらら古色蒼然鬼瓦  
梨を剥く妻饒舌にうんうんと

千葉 安彦 緑泉

廃校の路傍さびれし野菊かな  
六義園ここは江戸なり秋の風  
筑波越え風土記が丘の野分かな

千葉 門脇 耕水

野分後結びみくじの解け流る  
秋深し神を頼りの絵馬の数  
おでん種買ひ夕焼の道いそぐ

神奈川 森 京子

水道・下水道人の俳句の会 「四季の会」 入会歓迎

申込先 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9  
日本水道会館内 日本水道新聞社気付  
「四季の会」世話係 まで